

家庭訪問

家庭訪問をするときは、どんなことに気をつければよいのでしょうか。

不登校の子どもに対応する有効な手段として家庭訪問があります。家庭訪問をするときは、それぞれの家庭の事情や子どもの状態を大切にすることが肝要です。

不用意な訪問は、子どもや保護者との人間関係を悪くしてしまったり、問題の解決を長引かせてしまったりする場合があります。

家庭訪問には、次のような配慮が必要です。

〔あらかじめ、訪問の予定を連絡する〕

不登校の子どもが多くは、朝の登校時間帯に最も緊張が高まり、心理的に不安定になります。そのため、訪問するのは緊張が和らぐ放課後がよい時間です。ただし、「無気力」型や「あそび・非行」型の子どもには、朝迎えに行くなど、登校を促すことも必要です。訪問するときは、必ず事前に家庭と連絡をとってから訪問するようにします。時間もはじめは短め（10分程度）にします。

〔明るい話題を〕

子どもの気持ちを落ち込ませるような話題は避け、友だちや学校の楽しく明るい話題を話してくるようにします。また、子どもに返答をさせるような内容はできるだけ避けるようにします。

〔子どもを中心に〕

子どもと保護者が一緒にいるときに、子どもがあまり話をしない場合があります。教職員は、つい保護者とだけ話をしてしまいがちですが、あくまでも子ども中心の話をするように心がけることが大切です。子どもが興味をもっていることや、子どもが好きなこと、得意なことを一緒にするのもよいでしょう。

〔定期的、継続的に家庭訪問しよう〕

一定の時間に（例えば水曜の4時というように）枠を決めて、その時間に訪問するようにします。たとえ最初は会えなくても、決まった時間に必ず来てくれるという感覚が生徒の中にできていくことが大切です。ただし重要なのは、教職員が無理なく続けられると思う自分のペースを設定することです。何より継続することが大切だからです。

〔会えなくても，訪問しただけで十分効果はある〕

子どもが学級担任と会わなくてもよいことを保障することも大切なことです。子どもが会いたがらなくても，学級担任が来てくれたことに対して安心感をもちます。会えないときは，手紙等を書くのもよいでしょう。手紙なら読みたくなければそのままにしておけばよいので，子どもへの負担が少なくて済みます。

〔別れ際に，約束をしない〕

教職員は，状況の改善を期待するあまり，別れ際に子どもと約束をしがちになります。「不安など情緒的混乱」の型の不登校の子どもには，約束が守れなかったことに対する罪悪感が強く，守れないと学級担任に会えなくなる場合があります。そのため，子どもの状態に対して期待するような約束をしないようにします。

〔批判や評価をしない〕

不登校の子どもへの保護者の多くは，心の中では自分自身を責めています。信頼関係ができていないうちから批判や評価をすると，追い詰められて防衛的になり，保護者の協力が得られなくなる場合もあります。まずは，保護者の気持ちをわかろうと，話を十分に聴くことが，信頼関係を育む第一歩になります。保護者へのアドバイスは信頼関係ができてからにします。

〔秘密を守る〕

家庭訪問を重ねる間に保護者との信頼関係が深まってくると，家庭内の話にくい事柄も話題にのぼってくることもあります。話の内容については，他人に口外することのないよう慎重にしなければなりません。

〔保護者とだけ話したいときは学校へ来てもらう〕

家庭訪問では，子どもが側にいますし，子どもと会えなくても保護者との話を聞いている場合もあります。子どものことで込み入った話をしたいときは，保護者に学校へ来てもらうようにします。



保護者への対応

不登校の子どもをもつ保護者への対応はどうしたらよいでしょうか。

〔保護者の気持ち〕

- ・ 毎日きちんと学校へ行っていたのに、どうしたのかしら。
- ・ 身体にはどこも異常がないと言われるし。
- ・ クラブも勉強もちゃんとしていたのに。
- ・ なぜ、私の子どもが。

いじめられているのではないかしら

- ・ 先生の指導がまずいから。
- ・ 友だちがいじめるから。
- ・ おばあちゃんやお父さんが甘やかすから。
- ・ 学歴偏重や物質社会のせいでは。
- ・ 親をこんな目に遇わせて。



不安が強い



他を批判する

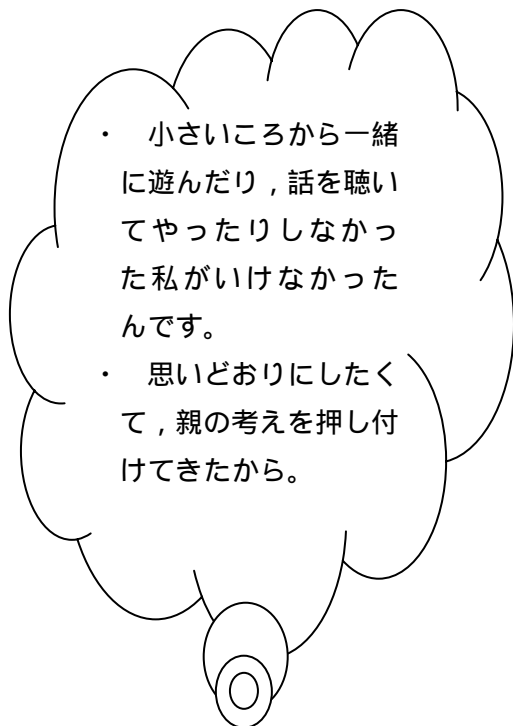
〔保護者への対応〕

保護者の不安が強いので、何よりも保護者の気持ちを安定させ、ともに考えていこうという思いやりのある態度で接する。

保護者は混乱と困惑の中で悩み苦しんでいるので、保護者の言葉や態度を評価しないで、保護者の気持ちや考えをしっかりと聴き、ありのままに受け止める。

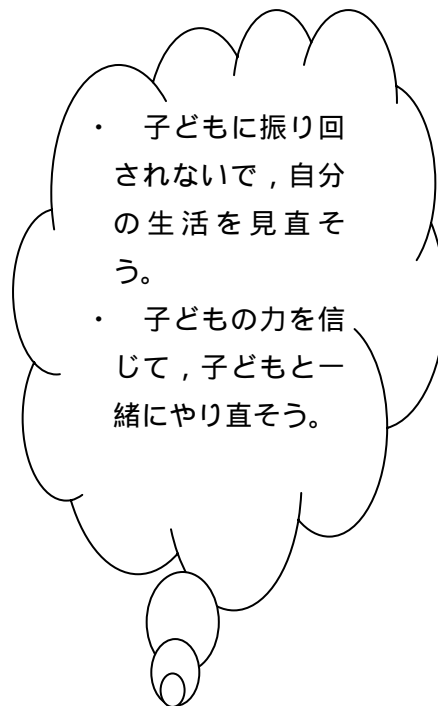
子どもが登校しない日が続くと、家庭の中で、保護者が毎日子どもにどうかかわるかが大切になってきます。特に、母親任せになっている場合は、父親にも協力してもらうことが大切です。

不登校の子どもをもつ保護者の気持ちは、一般的に次のように変化しています。保護者の気持ちを理解した適切な対応や支援が必要になります。



自分自身を責める

「親としての資格がないのだろうか」と絶望的で苦しい保護者の気持ちを受け入れ、支えていながら解決への希望をもち続けられるようにする。



見通しがもてる

視点を変えた多面的な理解ができるように働きかけ、子どもの今の状態を受け入れ、温かく見守ってもらうようにする。